

企業・団体のヘルスケアに関する意識・実態調査 結果報告【要旨】

【実施概要】

目的：中経連の会員企業・団体における、ヘルスケア、特に「健康経営」「健康寿命延伸」についての関心度合いや事業指向などを調査するために、調査を実施

時期：2021年5月14日（金）～6月4日（金）22日間

対象数：会員715社・団体 回答数：208社・団体（回答率29%）

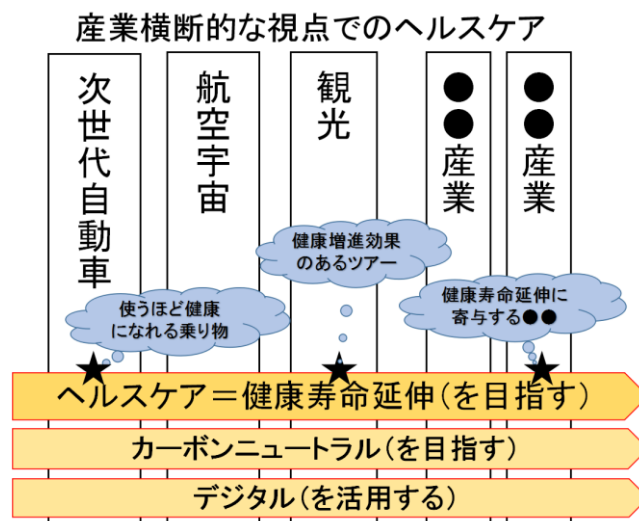
【結果サマリー：事前に立てた5つの仮説に対する検証結果】

中部圏、特に愛知県の健康寿命は全国的に最上位レベル、健康経営も既に積極的に実施されており、ヘルスケアに関する危機意識や切迫感は、それほど大きくないと思われる。

	仮説	結果
1	中部圏はヘルスケアについての関心度合いが低いのではないかと。（他のアンケートの回答率と比較し、ヘルスケアという言葉への関心度合いを測る。）	回答率29%は、直近に実施された他のアンケートと比べても遜色なく、ヘルスケアへの関心度合いが他のテーマより低い、ということはないと思われる。
2	健康経営は多くの企業で行われていると思われるが、規模や業種による差異や傾向があるのではないかと。	大企業のほうが中小企業より多くの企業で実施されている。 製造業とそれ以外の業種との比較では、それほど大きな差異は見られなかった。
3	中部圏固有の特色を見つけることができるのではないかと。（全国規模、他地域の同様なアンケートと比較）	若干の違いはあったが、中部圏固有といえるような特色は見つからなかった。
4	健康（健診）データのビッグデータ分析に、前向きな姿勢がみられるのではないかと。（特に大企業において）	大企業であっても、他の取り組み事項と比較し、実施度合いや優先度は低め
5	ヘルスケアに関する「困りごと」に、何か共通項があるのではないかと。	多くに共通した困りごと、課題といったものは、見つからなかった。

【今後の進め方】

ヘルスケアはカーボンニュートラルやデジタルと同様、企業・事業活動の共通基盤的な側面もあり、「ひとつの産業」というより「産業横断的」ととらえる必要があると考える。今後は、全産業の動向を俯瞰しながら、ヘルスケア・健康寿命延伸的な視点での情報収集を継続していきたい。



お問合せ先：一般社団法人中部経済連合会

産業振興部 佐々木彰一（052-962-8091）